

【考察】平成30年3月2日（金）

文責：藤井敦子

●平成29年12月27日（水）午後5：20～6：00

刑事課浅川将也氏と警務課住民相談係佐藤隆之氏がノーアポで訪れる。玄関先で、「なぜ来たのですか？もう弁護士をつけて民事裁判が進んでいます」と答えた。玄関先は嫌なので部屋の中に入った。英語の生徒の秋元氏がいる目の前である。まずは名前を確認した。刑事課の浅川で、夏に来たという。夏の記録をその場で確認すると、巡查部長浅川とあるので、生活安全課ではないかと聞くと刑事課だと。ましてや夏に来た警部補2名は生活安全課だと思っていたが、2名とも刑事課だと聞かされて驚愕する。なぜ嘘をついたのかと。刑事課とわかるとこちらが動揺するので、あえて隠したのではないかと告げた。

もう1名は住民相談係の佐藤氏。何しに来たのかを問うと、隣接しているお宅等に実際に臭いがするのかわかると聞きまわりたい、その際藤井さんのところとわかってしまうがどうかと聞かれた。うちは吸っていないので訊いてくれても構わないと答えた。煙を機械で調べるとも佐藤氏に言われた。それもありがたいと伝えた。浅川氏が、調べれば結果藤井さんに協力することになるとも言った。

両氏は換気扇を眺め、旦那さんは部屋でも吸うのかと聞かれたので、あなた方は千葉氏からの話ばかり聞いているから換気扇と思っているが、主人は防音室で吸っているのだ、と答え、主人の部屋に連れて行った。

浅川氏はたばこのにおいがすると言ったが、佐藤氏はよくわからないと言った。佐藤氏は何度も臭いをかいて、そう言われれば、、、というぐらいであった。

部屋に入り防音室の説明とベランダに隣接する二重窓、空気清浄機を示し、この部屋にいつもいるから他の部屋ではほとんど吸わない旨を説明した。主人の机に置いてあったコルツのたばこを浅川氏にこれだと渡した。浅川氏がすぐにコルツの写真を撮ったため、許可なく写真を撮ることは許されない、また何だかんだとうちのせいにする証拠に使われると怒ると、絶対に悪いようにはしないと一言そのま写真をとった。